

— 第12号 —

平成16年2月4日

北海道文教大学同窓会
「つるの会」

札幌市南区藤野400番地

北海道文教大学短期大学部内
TEL・FAX (011) 592-7636



入学式光景



新生同窓会「つるの会」に夢と期待を

北海道文教大学同窓会

「つるの会」会長 北崎 迪子

厳寒の候を迎え、全国各地においででの諸姉諸兄の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は同窓会の活動にご支援ご協力を頂きありがとうございます。

平和を祈って迎えた21世紀でしたが、世界に目を向けるとテロと戦争に苦しむ国があり、国内では今年もまた青少年の犯罪が世間を震撼とさせ、9月には十勝沖地震という災害まで起こってしまいました。

釧路周辺では大変な被害が出たと聞いておりますが会員の皆様にも被災された方がいらっしゃるのではないかと心配しております。心よりお見舞い申し上げます。

さて、平成14年に創立60周年を迎えた喜びに加え、積年の念願であった管理栄養士課程「人間科学部健康栄養学科」が昨年4月に記念すべき第1回生を迎え、その第一歩を記したことをご報告致します。栄養士養成校として鶴岡新太郎・トシご夫妻によって昭和17年に創立されて以来道民の食生活改善、指導者養成に寄与するところが大きかった母校ですが、更に時代のニーズに答える形で管理栄養士を社会に送り出すことにより益々その役割が期待される所かと思えます。「学部拡充の早期実現を求め」活動を起こして3年。基金造成などで会員の皆様には

ご協力を頂き感謝致します。

又、大学 外国語学部・第1回卒業生の皆様“始めまして”。

昨年3月に鶴岡学園短期大学同窓会の代表、大学関係者、外国語学部3学科の代表の方々と検討を重ねた結果「つるの会」という名称をもって共に同窓会活動を進めていくことになり、今回会報をお届け出来ることを大変嬉しく思います。これまでとは違った学部の皆様との連携により同窓会の活動にも新しい世界が拓がるのではないかと期待しております。積極的なご参加をお待ちしております。

小児化が年々進んでいる昨今ですが、「母校の発展」こそ「同窓会の発展」であることは言うまでもありません。個々の力は小さくとも同窓会という大きな力を持って母校発展の一助となれたらと思いますので、会員の皆様にも未来の担い手である若人を母校に送り込んで頂きたくお願い申し上げます。「会員相互の親睦を図る」という目的で運営されている同窓会ですから、電話、ファックスを活用されて当会の活動に参加されると共に、来る3月13日の同窓会総会には是非ご出席下さる事をお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校の更なる発展、皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り致します。



今年こそ「清く 正しく 雄々しく進め」

鶴岡学園理事長
北海道文教大学学長
北海道文教大学短期大学部学長

鈴木 武夫

わが学園の歴史を刻み伝統を受け継ぎ発展させてきた、北海道女子栄養学校・北海道栄養学校・北海道栄養短期大学・北海道文教短期大学・北海道文教大学短期大学部そして北海道文教大学の卒業生が、ここに大きく組織化されて『つるの会』の名のもとに同窓会を結集され、新たな歩みをはじめられることに心からのお喜びを申しあげます。

また、北海道文教短期大学部の食物栄養学科は昭和38年（1963年）の北海道栄養短期大学食物栄養学科開学から41年を経て来春最後の卒業生を出して、その歴史は北海道文教大学人間科学部健康栄養学科へと引き継がれ発展されています。

思えばこの名称と組織の改変は、社会の要請に応えて脱皮を重ねて成長しつづける学園の象徴でもあります。

世界は激動のサイクルを早め、長期的な展望のもちにくい時代に入っています。

同窓生の皆様の専門分野や社会活動分野におかれましても組織の改変や、将来計画の変更などで、なかなか困難な状況があることと推察いたします。

このような時代にこそ大切であり己を励ましつづけるエネルギーとなるものが、学生時代の友情であり母校の伝統でありましょう。

また、同級生の皆様の心に残るかけがえのない学生生活の想い出の底に流れるものは、開学以来その精神

的支柱として掲げられた学訓「清く 正しく 雄々しく進め」という、前進しつづける不屈の姿勢でありましょう。

現在、大学院・大学・短期大学部・高等学校・附属幼稚園では地域にしっかりと根を据えて、教育活動に研究活動に地道な実践を通して社会貢献を進めております。

ちなみに、平成15年春の大学・短期大学の卒業生の就職率は大学外国語学部95.2%、短期大学部幼児教育学科94.0%、同食物栄養学科96.8%と道内大学短大の中でも上位の結果を残すことが出来ました。

これも、同窓生の皆様が地域社会の中で、着実な実績を積み重ねておられることが大いに寄与していることと心から感謝申しあげる次第であります。

学園の新規事業といたしましては、本年の大学院設置、人間科学部設置に続き、次年度は従前から設置されている「別科(調理専修)」に加えて、「留学生別科」を新たに設置いたしました。この方面でのご支援もよろしくお願い申し上げます。

学園の教職員といたしましては、「母校の隆盛こそ同窓会の繁栄につながる」という北崎会長のお言葉に励まされながら一層の前進を心がける所存であります。

同窓会会員の皆様の、ご活躍とご健勝を祈念いたしまして報告をかねてのご挨拶といたします。

「食物栄養学科の学部拡充の早期実現を求める運動にご理解とご協力に感謝いたします」

平成15年3月以降に寄付をいただいた方々

栄養学校	昭和29年卒	潮 しげ子	昭和40年卒	川瀬 法子	昭和59年卒	今泉 直子	
昭和18年卒	高柳 信子	昭和29年卒	斉藤 淑子	昭和40年卒	小出 晴美	昭和63年卒	田端 冬美
昭和19年卒	近藤 圭子	昭和30年卒	庄司きみよ	昭和41年卒	能登 洋子	平成2年卒	植本 浩司
昭和20年卒	山田 良子	昭和37年卒	豊嶋 静子	昭和42年卒	山田 浩子	家政・生活文化学科	
昭和21年卒	木村 陽子	昭和37年卒	米田智香子	昭和42年卒	出島 秀子	昭和42年卒	池田 啓子
昭和22年卒	西岡 幸子	昭和38年卒	森若 夏子	昭和43年卒	和田 文子	昭和56年卒	中井 澄江
昭和28年卒	栗田 玲子	昭和38年卒	小林 京子	昭和44年卒	水上 裕子	幼児教育学科	
昭和29年卒	金丸 洋子	食物栄養学科		昭和44年卒	佐藤美貴子	昭和62年卒	丹野千枝美
昭和29年卒	木嶋 知子	昭和39年卒	真木 初恵	昭和49年卒	高野 康子	平成元年卒	川原田愛子
昭和29年卒	西野 幸子	昭和40年卒	藤田しおり	昭和52年卒	石田 朋子		



母校と同窓生のますますの良い循環

北海道文教大学 人間科学部

学部長 中矢 雅明

北海道文教大学同窓会「つるの会」の皆様お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。本学は創立60周年を経て、これまで幾多の問題もその都度解決しながら発展を続けてまいりました。ご存知のように大学を取り巻く社会環境は非常に厳しく、生き残りをかけて大学改革に取り組んできたところであります。そして昨年は長年の念願であった管理栄養士課程の四年制大学として認可を受けることができました。

それには歴代の理事長、学長をはじめとした教職員の弛まざる努力もございましたが、同時に卒業生の社会における立派な活躍と暖かいご助言やご支援が支えとなっていたことは言うまでもありません。

人間科学部健康栄養学科は誕生したばかりではございますが、短大・食物栄養学科で培ったノウハウをいかし、さらに教育の充実を図っていこうと教職員一丸となって努力しております。これまで築いてきた知的財産を如何にして継承・発展・維持し、伝統を守っていけるかと思うと初代学部長として身の引き締まる思いです。

さて、昨今の社会情勢をみますと自爆テロ、拉致問題、SARSそしてBSEに代表される食の安全性に対する諸問題など激動と不安の世の中であるように思われます。このような暗い話に対して新時代が要求する健康、医療、食糧、環境、人間などの分野を多岐にわたって網羅し、教育している本学部は学生の興味と

関心を引き、希望と意欲が沸き起こっております。

本学部の最大の使命は、創設者以来の実学志向に立ち、食と健康を追究し、その成果を広く社会に還元するとともに、その結実をもって教育研究などの更なる向上を図り、社会貢献を繰り返すということにあります。

また、現代社会に対応した適切な行動がとれる豊かな人間性と「もてなしの心」をもった能力の高い人材を育て、彼らを社会に送り出すことによって高い意識をもった学生たちがより多く集まってこのふたつの良い循環に加え「つるの会」を利用して、母校と同窓生のますますの良い循環をつくっていきたいと思っております。

学生諸君には管理栄養士の国家試験に合格する能力をつけるばかりでなく、人材育成に一層力を入れ、若い世代の瑞々しい感性を育むとともに「清く 正しく 雄々しく進め」の精神をベースに「もてなしの心」を培っていきたいと考えます。

これからも同窓会の皆様にご特別のご指導とご協力を賜りながら、本学部の更なる発展のためにその重責を誠心誠意はたしていく所存です。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、末筆ながら、皆様のご健勝とますますのご発展をお祈りいたします。

管理栄養士国家試験について

毎年5月に実施されています管理栄養士国家試験の合格発表は、今年も6月9日にありました。栄養学校や食物栄養学科を卒業された皆さん方もきっと新聞紙上での名前発表を知っている方はいないか、楽しみに見られていることでしょう。今年度は第17回の試験で全国の受験者数は23,897名 合格者数が4,732名 合格率が19.8%でついに20%を割ってしまいました。

そんな厳しい中、本学の卒業生の合格者数は昨年を大きく上回る37名が合格しました。この人数は全国の管理栄養士・栄養士養成校323校中30位、また、栄養士養成校のみの290校中11位という素晴らしい活躍でした。

この合格された37名中14名もの卒業生は母校が実施しています準備講習会に参加していました。今年度は2回の準備講習会が母校で実施されます。1回目は11月1・2日の2日間で全13科目を初めて実施してみました。110名の卒業生が参加し熱心に受講していました。2回目は2月後半もしくは3

月前半に実施予定です。

現行での国家試験内容の受験は2回しかありません。新カリキュラムに対応した1回目の国家試験は平成18年の3月に実施されることになっています。第18回管理栄養士国家試験を受験される同窓生の皆さんは、仕事と学習を両立されながら大変でしょうが、あともう少しです。頑張ってください。食12回生 田中律子(北海道文教大学勤務)

第17回合格者

吉田純・佐藤亜衣子・宮崎理恵・澤田千晶・北上和子・安田恵理加・山上ゆか・一戸美雪・遠藤みき・三好優香・竹田郁美・西田恵美・菅原亜矢・舩井久美子・石井梨恵・福田かなえ・稲場景子・熊本玲美・齊藤瞳・伊予部幸子・石橋ゆかり・三好裕美・千葉恵理香・鈴木香帆・志田佳恵・小玉恵三子・合田恵理子・真嶋愛子・徳丸幸恵・小坂明日香・鈴木拓哉・奥平まり子・大窪亜矢・飯田あゆみ・井上麻里絵・菅原恵美子・加藤由佳

以上37名の卒業生 おめでとうございます。



更なる発展に向けて

北海道文教大学 外国語学部

永原和夫

そろそろ春の訪れが聞かれる頃になりました。同窓会の皆さま、とりわけ昨年、北海道文教大学の第1回生として外国語学部を卒業された皆さん、その後いかがお過ごしですか。初めて社会に出た貴方たちにとって、この1年は長引く経済の低迷、深刻な少子化、ますます泥沼となっていくイラク情勢など、想像以上に厳しいものであったろうと存じますが、もう新しい環境に慣れましたか。

ご承知のように大学では、昨年4月、大学院グローバルコミュニケーション研究科中国語専攻が開設され、また、短期大学部食物栄養学科が管理栄養士の養成を目指して人間科学部健康栄養学科に改組され、これまでの1学部3学科から2学部4学科に変わり、学生数も1学年200人から350人に増えました。それにともない、恵庭キャンパスに院生用研究室と人間科学部の新講義棟が作られ、大学会館エントランス脇に喫煙室ができ、また、テニスコート横に屋外トイレと水飲足洗場が設置されるなど、大学の新しい展開が始まったところですが、この機会に外国語学部の最近の様子をお知らせします。

大学が完成年度に達しましたので、平成15年3月末をもって国語学の渡邊英二先生と文化人類学の和田完先生が退職され、4月から高橋順一教授(英語学)と小西正人講師(国語学)が着任しました。岩城禮三、矢口以文、東昇、時田健次郎先生は囑託として現在も教壇に立たれています。矢口先生の新たな詩集『周辺の人々』(知加書房)が刊行され、城谷武男先生は最近のお仕事を『中国・わたしのばあい』としてまとめサッポロ堂書店から出版されました。

今年度から新カリによる授業が始まりましたが、専門語以外の外国語は2年次からの履修ですので、大きな変化はまだ見られません。6月28・29日、第49回〈黒人研究会〉全国大会が英米語学科の主催で開催され、それに先立ち27日に学会のゲストスピーカー、レジー・ライフ氏(TVプロデューサー)による公開講演がありました。ダイアン・カマラタ先生のドラマグループの卒業公演『グリース』が12月5日夢創館(島松駅前)であり、大成功をおさめました。中国語暗唱朗読大会では、中橋知子さん(3年)が優勝するなど、

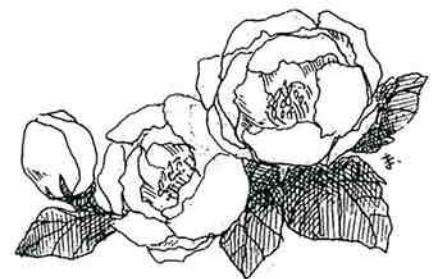
例年通りの好成績を持続しています。日本語学科の文芸創作サークル〈重二輪(えにわ)〉は、機関誌『月に逐う』の創刊号を10月1日に刊行しました。

国際関係では、今年度は春先のSARS騒動の影響で留学計画が中止や延期になるものが多かったのですが、依田正男君(中国語学科2年)が中国政府奨学金で大連理工大学へ、交換留学生として長谷川裕美さん(英米語学科4年)がサンシャインコースト大学、鈴木博之君(英米語学科3年)がサハリン国立総合大学へ長期留学中です。マリア・ルキャネンコさんがサハリンからの交換留学生として来学し、日本文化を学んでいます。

6月4日から8日までの五日間に渡って開催されたYOSAKOIソーランで、本学の〈跳殿蝶嬢〉が華麗かつ精力的な演舞を披露したのは御存じと思いますが、文教祭も軌道に乗り、地域の人たちが大勢参加してくれるようになりました。部活では、中国語学科4年の神林均麻幾君が囲碁の「全日本学生本因坊戦」に出場したこと、自転車部の樋口千樹君(英米語学科2年)が、8月下旬、韓国で行われた道路サイクル常州大会で総合12位の成績をおさめたことが特記されます。

最後に就職のことですが、第1回生は不況下に90%を超える就職率を達成し、北海道に文教大学あり、ということ年全国に知らしめてくれたのですが、2回生も年末の報告で70%に迫る勢い、昨年同等の成果が期待されます。道の教員採用試験に吉澤祐希さんが〈高校・英語〉で合格しました。昨年に続く快挙です。

このように教職員・学生共ども外国語学部の更なる発展のために懸命に努力していますので、温かいご声援を賜りますよう心からお願いいたします。





「学生時代」

外国語学部 英米語学科
第1期卒業

寺西 舞

北見東相内中学校勤務

「先生」と呼ばれるようになって早9か月が過ぎました。ちょうど1年前の頃は、卒業発表のミュージカル“Guys & Dolls”の練習に夢中になっていたことを思い出します。よく「学生時代は楽しかった」と言われますが、私にとっての大学時代は、たくさんのことに夢中になり、素敵な先生や仲間恵まれて楽しい日々を過ごせた最高の4年間でした。第一期卒業生の仲間達は皆、同じ気持ちではないかと思えます。

私は今、元気な中学生達に囲まれ、バタバタしながらも充実した毎日を過ごしています。夢と希望にあふれ、いきいきと活動している子どもたちから学ぶことは多く、パワーも分けてもらっています。この子たちが大人になり、今の私のように思い出す「学生時代」はどのようなものになるのでしょうか。私はそれが生徒一人ひとりにとって輝かしい思い出になることを願っています。たくさんの友だちをつくり、将来の夢や目標を見つけ、勉強だけではなく好きなことに夢中になれる。どんな生徒にとっても中学校が大好きな場所となり、中学生時代が素晴らしい財産となっていくこと、それが教師となった私の今、1番の夢です。もちろん私にとっても職場である学校が大好きな場所となり、学生時代以上に「教員時代」が貴重な財産となるように、一歩ずつ、生徒と共に成長していきたいと思えます。



「4年間の恵庭人」

外国語学部 日本語学科
第1期卒業

黒沢 佳奈子

(株)パブリックセンター勤務

卒業式のあとの「卒業を祝う会」が終わった時、目が腫れる程泣いた。私にとって嬉しい誤算だった。高校を卒業するときは、1ミリも涙なんて出さなかった。大学生生活が、終わってしまうことに涙出来るものになったことが、4年間ただ何となく過ごただけではない、という証のようで、少し誇らしい。

私の学生生活は、卒業間際まで、ピシッリ続いた。卒業単位が足りなくて、1年次の講義を・・・というわけではなく、卒業アルバムの制作を祝う会の仕込みに追われていたからである。追われていたには語弊がある。やりたくて仕様がなくてやってたもんなあ。

大学4年の10月末に、アルバム誰作るんだ？えっ誰もやってないじゃん！と気付いてしまい、就職も決まっていないのに業者を探し、見積りを取り、委員会を作ったり、突貫工事状態に。何せ、行事の写真もなければ、個人写真も集合写真もなーんにもない。学生から写真を出してもらい、個人写真やサークル集合など、撮影日をセッティングし、必死になって写真をかき集め、学友会室のプレハブを先輩の力でのっつて、アルバム代を浮かすために、切って貼っての版下作り。作業は、卒業旅行に行くのを躊躇する程の量だった。卒業式の前日まで、通帳をにらみ電卓片手に深夜の計算。明日振りこむのに合わないよ金額。卒業式当日も袴のすそ持ち走り回り、祝う会へ突入。

翌々日から会社へ行って、現在に至る。というわけで、実は全然学生時代を消化出来てないし、まだ思い出にもなっておりません。

何となく、1期生の学生生活の1ページを垣間見ていただければ幸いです。

●幼児教育学科 保育フェスティバル●





the second lap

外国語学部 日本語学科
第1期卒業

渋谷 剛 弘

北海道文教大学
明清高等学校教諭

大学を卒業して、すぐに高校の教師となることができました。しかし、私には教師という仕事は全く未知の世界でした。憧れだけで実際には何をすればいいのか右も左もわかりませんでした。

私は長年の夢が叶いましたが、まだ達成されてはいないと思います。というのも、教師として一人前になって初めて夢を達成したと言えるからです。今やっと入り口に立つことができたと感じたほうがふさわしいかもしれません。

私にとってこの1年は夢を達成するために大切な「勉強の年」だったと思います。やはり楽しい事ばかりではなく、時には挫折をしたりしました。このような中から様々なことを学び、得るものがありました。

自分では越えられない壁にぶち当たった時に、そつと手を差し伸べてくれた先生がいたり、純粋な心を持った生徒たちと出会いエネルギーをもらったことで、なんとか前へ進むことができました。また、野球部の顧問をさせてもらい、選手たちと一緒に一喜一憂できたことも自分にとってプラスになったと思います。私はこうした大変良い環境の中で仕事をさせてもらっているのだなとつくづく感じています。

私は1年間、教師という仕事をしてきて、最近になってやっと教師らしくなってきたような気がします。他人から見れば、まだまだかもしれませんが、「1年間やりぬいた」このことが今の自分にとって大きな自信となっています。この1年で得たことを軸にして、1年目が「勉強の年」ならば二年目は「飛躍の年」にしたいと思っています。一日でも早く夢が達成できるよう日々精進していきます。

保育フェスティバル



北海道文教大学短期大学部
幼児教育学科長

佐藤 信 雄

短期大学部幼児教育学科では学習内容の発表の場として『音楽フェスティバル』『ミュージックシアター』といった行事を長年にわたって開催してきましたが、本年度からは幼児教育学科としてのより広い学習内容の集大成の発表の場として新たな構想のもとに実施することになり、秋も深まった11月15日（土）に『文教保育フェスティバル』として市内の道新ホールで開催されました。学生達は連日、夜8時、9時まで土曜・日曜日でも返上して準備と練習に励んできました。当日は一般市民の方々、学長をはじめ恵庭キャンパスの方々

並びに、附属幼稚園の園児を中心とした子どもさんたちなど多数の方に御来場者をいただき、大盛況のうちに終幕しました。終演後は自分たちの力で見事になしとげた学生達の歓喜と、感動、興奮の輪がいつまでも続いていました。学生も教職員も、この行事を通じて学科が『ひとつ』になれたことを実感できた素晴らしい一日でした。



平成15年度事業報告

1. 同窓会名簿の整理
2. 平成14年度卒業生への記念品贈呈
3. 研修会（講演会、講習会、見学会等）の開催
4. 会報の発行 会報「はまなすの実」第12号を発行予定
5. 4大との同窓会の統合について
6. 支部の充実
7. その他

平成15年度予算

自 平成15年3月1日
至 平成16年2月末日

科目	予算	備考
前年度繰越	2,283,625	
会費	6,690,000	14年度分 245名×15,000円=3,810,000円 大学生 192名×15,000円=2,880,000円
利息収入	500	普通預金利息
名簿代	8,000	
寄付金	960,000	
計	9,942,125	

平成14年度決算

自 平成13年10月1日
至 平成15年2月末日

科目	予算	決算	増減	備考
前年度繰越	2,286,684	2,286,684	0	
会費	4,425,000	4,200,000	△225,000	平成13年度 280名×15,000円
利息収入	1,500	253	△1,247	普通預金
名簿代	8,000	8,000	0	2冊
計	6,721,184	6,494,937	△226,247	

支出の部 (単位：円)

科目	予算	備考
総会及び懇親会	600,000	ビンゴ景品代、会場代
卒業記念品費	490,600	446名×1,100円
印刷費	1,500,000	総会の案内印刷・会報印刷、はがき印刷
通信費	1,500,000	総会案内・会報発送、電話代、切手代
事務消耗品	250,000	事務用品、コピーカートリッジ
会議費	500,000	役員会、委員会 会報及びホームページ委員会
交通費	500,000	
アルバイト料	250,000	
名簿整理費	10,000	
研修費	200,000	講演会、講習会開催のため
予備費	50,000	
基本金積立	2,000,000	
次年度繰越金	2,091,525	
計	9,942,125	

支出の部 (単位：円)

科目	予算	決算	増減	備考
総会及び懇親会	300,000	268,428	△31,572	ビンゴ景品代、会場代
卒業記念品費	295,000	209,139	△85,861	手帳280セット(内消費税9,959円) 内訳 手帳カバー・手帳リーフ・のし箱 のし紙印刷・会則小冊子
印刷費	1,000,000	735,725	△264,275	総会の案内印刷・会報印刷、はがき印刷
通信費	1,500,000	1,099,398	△400,602	総会案内・会報発送、電話代、切手代
事務消耗品	150,000	196,332	46,332	事務用品、コピーカートリッジ
会議費	500,000	325,711	△174,289	常任幹事会、会報委員会、 幹事会、大学生との会合
交通費	500,000	521,340	21,340	
アルバイト料	250,000	239,509	△10,491	事務の整理
名簿整理費	300,000	500,000	200,000	
研修費	200,000	35,000	△165,000	講演・演奏のお礼、車代
予備費	50,000	80,730	30,730	60周年記念式典花代 17,850円 鶴岡学園へ寄付金不足分 62,880円
基本金積立	1,000,000		1,000,000	
次年度繰越金	676,184	2,283,625	1,607,441	
計	6,721,184	6,494,937	△226,247	

◆ 役員 ◆

会長	北崎 迪子(食3)			
副会長	後藤田 倫子(食3)	小松 信隆(専5)	松木 寛美(幼17)	
幹事	橋本 美佐子(栄1)	市村 英子(栄6)	菅原 美子(栄12)	
	牧野 夢津(食2)	東 定利(食28)	西村 雅勝(食28)	
	鈴木 亜子(専9)	石川 尊子(専9)	江幡 和美(別23)	
	寺西 舞(英米)	小野 貴司(英米)	滝坪 理枝(中国)	
	田中 亮(中国)	黒澤 佳奈子(日本)	桜庭 守恭(日本)	
常任幹事	田中 律子(食12)	坂本 恵(食17)	寒河江 可南子(幼32)	
会計	櫻澤 倫子(食6)	小向 朝子(幼12)		
会計監査	下国 心(食27)	渡辺 健司(専5)		

平成15年度 同窓会総会のご案内

- 日 時 平成16年 3月13日 (土)
 講演会 14:00~15:00
 総 会 15:15~
 茶 話 会 総会終了後
- 場 所 北海道文教大学
 恵庭キャンパス (恵庭市黄金196番地1)
- 会 費 2,000円

講演 『夫婦関係とコミュニケーション』

講師 土倉 玲子 先生



講師紹介

学歴・学位

- 昭和51年 早稲田大学第一文学部
 英文科卒業
- 平成 7年 北海道大学大学院文学
 研究会行動システム科
 学科社会心理学専攻修
 士号取得
- 平成14年 北海道大学大学院文学
 研究会行動システム科
 学科社会心理学専攻博
 士号取得 (行動科学)

職 歴

- 札幌大学非常勤講師 (英語)
 - 北海道文教大学短期大学部非常勤講師 (英語)
 - 近畿大学九州短期大学非常勤講師 (人間関係論)
 - 北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤講師 (人間関係論・英語)
 - 北海道美唄聖華高等学校看護専攻科非常勤講師 (心理学)
 - 北海道文教大学非常勤講師 (社会心理学)
 - 北海道大学医療技術短期大学部非常勤講師 (母性心理社会学)
- 学会・社会活動**
- 日本社会心理学会
 - 日本グループダイナミクス学会
 - 北海道社会学会
 - 北海道心理学会
 - 日本家族社会学会

編集後記

鶴岡学園短期大学同窓会に北海道文教大学の1期生の皆様の入会を受け、同窓会も北海道文教大学同窓会「つるの会」に生まれ変わりました。この会報、「はまなすの実」第12号は同窓会が改称されて初めての会報となりますが、会報の名称は今までどおり「はまなすの実」として発行させていただきました。編集委員一同、鶴岡学園短期大学同窓会の伝統を受け継ぎ、新生「つるの会」として発展を願いながら編集を行ってまいりました。

同窓会役員、編集委員も新メンバーが多数加わり、不慣れなため、至らない点が多いかと思いますが、ご容赦いただければと考えております。会報の名称はそのままですが、本号から書式を横書きにしましたがどうでしょうか?ご感想、ご意見をいただければ幸いです。

本委員会は「会報及びホームページ委員会」として「つるの会」に改称後発足した委員会です。名前のとおり同窓会のホー

ムページの更新も担当しております。現在、ホームページの更新やe-mailや掲示板での会員相互の交信を充実させることを念頭に活動を行っております。遠方の委員もいるため、メーリングリスト等の活用で着実に前進するべく努力をしております。同窓会の情報管理、就職情報等の集約も可能な充実したホームページを目指しておりますので、委員以外の方々の意見も広く募りたいと考えております。皆様のご協力に感謝いたします。

今年度の同窓会のご案内にもメールアドレスの記入欄を設けました。ホームページ更新の際にはメールでの連絡も考えておりますので、メールアドレスをお持ちの方はぜひご記入いただければ幸いです。

北海道文教大学と北海道文教大学同窓会「つるの会」の更なる発展のために「はまなすの実」および「つるの会ホームページ」の充実を目指します。今後とも会員の皆様方のご支援をお願いいたします。 (題字は浅見春江さん(食4)による)

同窓会事務局 〒005-0840

(札幌市南区藤野400番地・北海道文教大学短期大学部内)

住所変更、氏名等変更の変更の場合はご連絡下さい。

直 通 専 用 電 話

FAX (011) 592-7636番

会報及びホームページ委員

- 北 崎 迪 子 (食3) 後藤田 倫 子 (食3)
- 小 松 信 隆 (専5) 松 木 寛 美 (幼17)
- 田 中 律 子 (食12) 槌 本 浩 司 (食26)
- 工 藤 鉄 也 (食37) 黒 澤 佳 奈 子 (日本)